

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	2	名称	福祉と健康づくりで明るいまち			
施策	番号	6	名称	高齢者の生きがい対策の推進			
主担当部	福祉課		主担当課	福祉総務課		部長名	福井 和夫
関係部	—		関係課	—			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	高齢者が、生涯学習・老人クラブの活動等に参加しやすい環境を作るとともに、そこで学習した成果を発展させる場所・機会の充実を図ります。元気な高齢者が、ボランティア活動等に生きがいを持てるような環境を作ること、高齢者の社会参加を促進します。さらに、市民が様々な世代とのつながりを感じられるよう、世代間の交流の場を管理運営することにより支援します。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	豊富な経験・知識を持つ元気で活動できる高齢者が増加しています。このようなシニア世代のエネルギーを社会貢献につなげることができるような地域活動・文化活動の場となる様々な講座及び各地域における学習活動への支援、成果を発表できる場が求められています。高齢者が生きがいを実感しながら生活の充実・向上につながるよりよい仕組みづくりを進めます。	県においては、高齢者の生きがい対策活動を支援するための社会参加活動に関する啓発、社会活動振興のための支援、さらに高齢者が気軽に生きがいを持って活動できる環境づくりを行っており、市と協力して施策を推進する関係にある。
これまでの成果	老人クラブの地域活動に参加することによって高齢者の社会参加が図れている。千寿荘等において、各種教養講座を開設しており、各施設を発表会及び展示会等多様な学習の場として活用し、高齢者が生きがいを実感しながら生活を充実・向上させることにつなげている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	老人クラブ加入者数	3350	3500	3136	4000	4700	
	施策指標② (成果指標)	高齢者大学校受講者数	231	270	199	270	270	
	施策指標③ (成果指標)							
	施策指標④ (成果指標)							
	施策指標⑤ (成果指標)							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出 (直接事業費)(a)		22,214	24,690	21,921	20,338		
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	1,210		
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	1,530	14,417	14,161	11,290		
	(a) - (b) = 一般財源		20,684	10,273	7,760	7,838		
	正職員	従事者数 (単位:人)	2.65	3.00	2.50	2.10		
		人件費(c)	17,225	17,409	14,508	12,186		
トータルコスト (a) + (c)		39,439	42,099	36,429	32,524			

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	高齢者の生きがい対策として、生きがいづくりや文化活動の場の提供に関しては、利用者は横ばいである。老人クラブ活動の支援に関しては、高齢者が増加しているにもかかわらず、加入者が増えない状況にあり、活性化を講じなければならない。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	高齢者が生きがいを持って生活することは、心身の健康を保持するためにも重要なことであり、その意味で高齢者福祉の増進のため大きな貢献をしている。				

6. 施策の課題

この施策の課題	高齢者の生きがい対策事業のうち、高齢者生きがい事業は、老人クラブの加入者が対象者の増加にも関わらず、減少しており、活性化を講じることが課題となっている。また、敬老会は年々対象者が増加し、現在の方法では将来的に実施が困難になることが予想されるため、根本的に実施方法を見直すことが課題となっている。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	老人福祉センターは平成28年3月20日をもって閉館したが、高齢社会の進展に伴い、本施策の重要性は益々増大する。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	敬老事業や老人生きがい対策事業については、利用者のニーズを勘案した見直しを図りながら事業の継続を考える。また、高齢者生きがい対策事業については、老人クラブの活性化を検討しながら継続する。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH27決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	福祉総務課	①市内75歳以上の高齢者を対象に例年9月下旬に敬老会を実施し、10月には結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚式を開催する。 ②節目を迎える高齢者に記念品を贈る。	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	B
	敬老事業 (ソフト(任意))		9,964 (千円)			
2	福祉総務課	①市老連・単位老人クラブ補助金交付 高齢者相互の親睦と理解、地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。 ②シルバーネットワーク補助金交付 明るく住みよい長寿社会を実現するためのネットワーク事業に対して援助。 ③音楽療法研究会補助金交付 高齢者の心身の安定や意欲の向上などを図るため、会の活動を援助。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	A
	高齢者生きがい事業 (ソフト(任意))		8,994 (千円)			
3	福祉総務課	市内に居住する60歳以上を対象に日本画・書道・花卉園芸・手芸・陶芸・俳句・川柳・盆栽の8教室による教養講座の開催と、その成果発表を兼ねた作品展の開催により創作意欲と内容の充実を図る。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	C
	老人生きがい対策事業 (ソフト(任意))		2,963 (千円)			

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

PLAN 計画	事務事業名	敬老事業						
	担当部名	福祉部	担当課名	福祉総務課	課長名	吉村 元宏		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち				
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進				
	予算事業名	03 01 04 民生費 社会福祉費 老人福祉費 老人生きがい対策事業費						
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度
対象	市内在住75歳以上高齢者・結婚50年夫婦			事業の内容説明	①市内75歳以上の高齢者を対象に例年9月下旬に敬老会を実施し、10月には結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚式を開催する。 ②節目を迎える高齢者に記念品を贈る。			
事業の目的	高齢者自らが住み慣れた地域社会の中で、健康で安心して生きがいをもって暮らすことができるよう、高齢者の長寿を祝う行事や金婚式等を実施する。							
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
	説明	市制発足当時から続けている市の敬老事業であり、敬老のお祝い行事であることから公共性が高いが、高齢者が増加する一方であるため、開催のあり方について検討を行っている。						
	やめた場合の影響は	3	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
説明	やめた当初は反響があると思われる。							
DO 実施	指標の推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)
				実績	計画	実績	見込み	見込み
	成果指標	敬老会参加者率		19	20	20	20	20
	活動指標①	敬老会参加者		2,613	3,000	2,500	3,000	3,000
	活動指標②							
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算
		歳出(直接事業費)(a)			11,611	13,211	9,964	11,782
		歳入(b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			13,000	13,000	10,000
		(a) - (b) = 一般財源			11,611	211	-3,036	1,782
		正職員	従事者数(単位:人)		0.80	1.20	0.80	0.80
人件費(c)			5,200	6,964	4,642	4,642		
トータルコスト(a)+(c)			16,811	20,175	14,606	16,424		
単位当たりコスト	計算式等 ()/()							
備考 (これまでの実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	市の行事として、認知度は高い。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	敬老会は例年9月の行事として高齢者に認知はされており、楽しみにしている方が多い。また金婚式については毎年、年度当初から多数の問い合わせがある。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	効率が	2	1 効率が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率が非常に高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率が低く、改善が必要	4 効率が非常に低い、改善が見込めない		
		説明	敬老会の開催内容、記念品送付の年齢や品物選定等を再考することにより、コスト削減を図ることは可能だが、高齢者が増加する一方なので、今までと同一単価となると経費削減は難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		高齢者が増加する一方であり、この状態が続けば開催場所に入りきらず、消防法にも抵触する恐れがある。2日開催等の案もあるが、予算は拡大の一方である。敬老会を続行するなら、開催時間等の変更による半日開催や送迎のあり方についての検討を行い、その結果の参加人数を把握する必要がある。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明		敬老関連事業を完全に無くすことは難しいが、事業内容・開催内容の改善等は可能である。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	高齢者生きがい事業							
	担当部名	福祉部	担当課名	福祉総務課	課長名	吉村 元宏			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち					
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進					
	予算事業名	03 01 04 民生費 社会福祉費 老人福祉費 老人生きがい対策事業費・高齢福祉事業費							
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
	対象	市老人クラブ連合会・生きがい活動団体等		事業の内容説明	①市老連・単位老人クラブ補助金交付 高齢者相互の親睦と理解、地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。 ②シルバーネットワーク補助金交付 明るく住みよい長寿社会を実現するためのネットワーク事業に対して援助。 ③音楽療法研究会補助金交付 高齢者の心身の安定や意欲の向上などを図るため、会の活動を援助。				
	事業の目的	地域で暮らす高齢者が生きがいをもって暮らせ、明るく活気に満ちた地域社会の実現のため、各高齢者活動団体等へ向けて助成を実施する。							
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
			2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
説明		高齢者の生きがい活動の充実や地域高齢者の活動助成のため。							
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
		説明	補助金事業のため、助成団体の運営や活動規模の縮小につながる。						
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	市老人クラブ加盟団体		58	70	54	60	60	
	活動指標①	老人クラブ加入者数		3,350	3,500	3,136	3,500	3,500	
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)			7,633	8,246	8,994	5,912	
		歳入(b)	受益者負担額						
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)		1,530	1,417	1,161	1,290	
		(a) - (b) = 一般財源			6,103	6,829	7,833	4,622	
正職員		従事者数(単位:人)		0.25	0.30	0.20	0.70		
		人件費(c)		1,625	1,741	1,161	4,062		
トータルコスト(a)+(c)			9,258	9,987	10,155	9,974			
単位当たりコスト	計算式等								
	() / ()								
備考 (これまでの実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	老人クラブ加盟数及び加入者数ともに減少傾向にあるが、高齢者の老人クラブ加入は、高齢者自身が生きがいを見つける助けとなり、地域社会への活力となっている。音楽療法等の活動は介護予防としての効果を発揮している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	活動をしている団体は地域に根ざしているところが多く、地域と行政のパイプ役として機能している。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	補助金事業のため、助成団体の運営や活動規模の縮小につながるため難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		補助金額の見直しによる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する 補助対象が減少すれば、事務事業も減少。							

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	老人生きがい対策事業							
	担当部名	福祉部	担当課名	福祉総務課	課長名	吉村 元宏			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち					
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進					
	予算事業名	老人生きがい対策事業							
	事業の開始年度	昭和	54	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
	対象	市内に居住する60歳以上の人			事業の 内容説明	市内に居住する60歳以上を対象に日本画・書道・花卉園芸・手芸・陶芸・俳句・川柳・盆栽の8教室による教養講座の開催と、その成果発表を兼ねた作品展の開催により創作意欲と内容の充実を図る。			
	事業の 目的	市内に居住する高齢者に趣味等の文化活動へ参加する機会を提供することで活動の振興並びに地域住民同士の交流の促進を図り、高齢者が生きがいのある生活を営むことができるように支援する。							
	市の関与の 必要性を 評価してく ださい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
説明		市内に居住する高齢者の趣味等の文化活動の参加機会の提供及び活動の振興並びにこれらの活動を通じて地域住民同士の交流促進を図り、高齢者の潤いのある生活と生きがいを高めるとともに世代間の理解を深め老人福祉の増進を図っている。							
やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明 高齢者が生きがいを持ち、教養を高める機会が減少する。							
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	教室受講者数		344	350	340	250	250	
	活動指標①	新規教室募集者数		38	60	36			
	活動指標②	教室展示会出品者数		330	350	329			
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)			2,970	3,233	2,963	2,644	
		歳入 (b)	受益者負担額						1,210
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)						
		(a) - (b) = 一般財源			2,970	3,233	2,963	1,434	
正職員		従事者数(単位:人)			1.60	1.50	1.50	0.60	
		人件費(c)			10,400	8,705	8,705	3,482	
トータルコスト(a)+(c)			13,370	11,938	11,668	6,126			
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト)/(受講者数)			39	34	34	25		
備考 (これまでの 実績等)	活動指標①新規教室募集者数についてはH28年度、29年度は前年度受講生のみ継続受講の為、新規募集は無し。 活動指標②教室展示会出品者数についてはH28年度より教室展示会は中止となった為、出品者数は無し。								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	教養の向上や受講者同士の交流を生きがいとする人も多いが、受講者数は横ばいである。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	交流を楽しみ、教養の向上を目的とした高齢者が参加している。意欲的に受講しているが、全体的には新規生が少なく、昨年以前からの継続生がほとんどである。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			説明 以前から経費削減しているため、これ以上の経費削減は望めない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		全国的な高齢化で、本市においても閉じこもりがちな高齢者が増えることが予想されるが、生きがい教室に参加することにより人とふれあうことで、日常生活に楽しみや張り合いができ、老後の生活が豊かになる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	D
4 廃止又は休止する				5 完了する						
		説明	今後、受講生の参加動向を見ながら、事業の見直しを図る。							